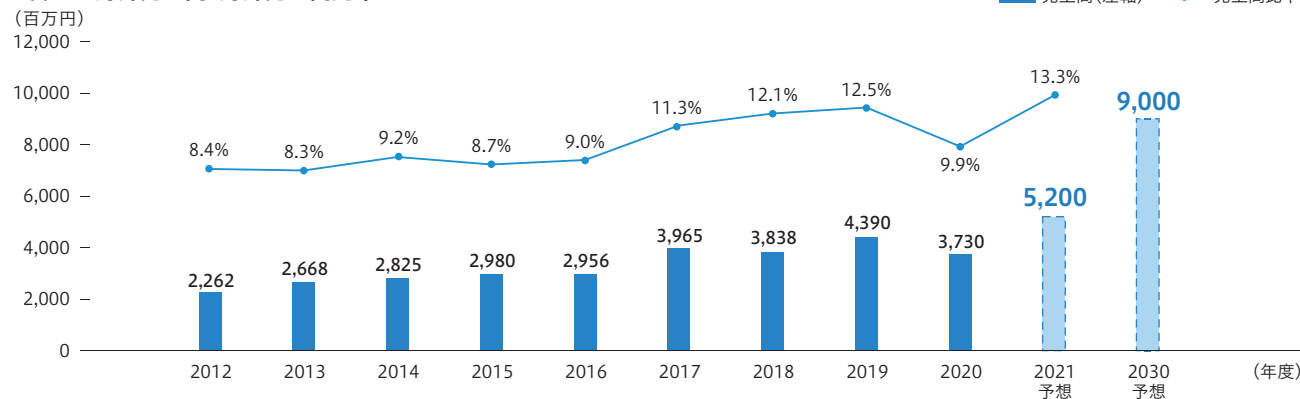


中長期的成長を牽引する 海外・新規事業

日工グループは長期基本方針の中で2030年度に海外売上高90億円、新規事業で同100億円を目指しています。海外と新規事業を成長させるため経営資源の投入を図りつつ、新規事業ではM&Aも選択肢として考えています。

●日工の海外売上高・海外売上高比率



海外事業～中国で高まるリサイクルプラント需要と日工上海の打ち手

日工の海外事業は2020年度で売上高37億円(全体の9.9%)、2019年度比15%減でした。このうち中国の日工上海は売上高36億円でほぼ横這い、ASEANを始めとする輸出が新型コロナウィルス感染症の活動制限も加わって大幅減になりました。2021年度の海外事業は売上高52億円と回復を見込みますが、中計で掲げた目標の61億円には届きそうもありません。このうち日工上海の売上高は37億円と微増のため、2020年度に現地法人を立ち上げたタイや大型受注を獲得した台湾でAPの売上が伸びると見えています。

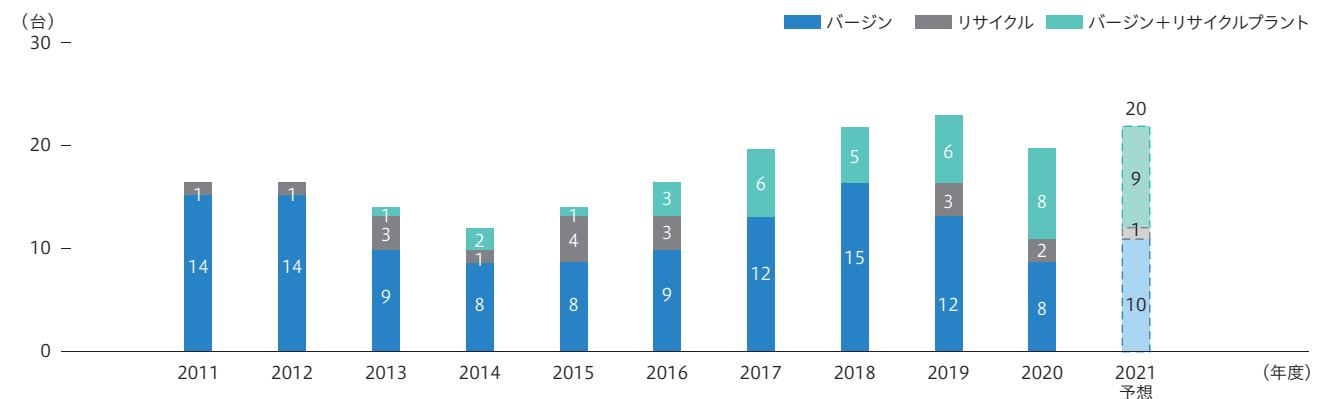
POINT 中国(日工上海)の現況と今後の打ち手

日工(上海)工程機械有限公司は2001年に設立されて、2021年8月現在の従業員は106名です。取り扱い製品はアスファルトプラント(AP)であり、代表的な製品はAPでNBD320、NBD400、リサイクルプラント(RU)でTOPα120、TOPα160、2021年からAPとRUを一体化したミッドシップでMBD400-R160です。中国は大きめのAPが中心です。

日工タイランドはタイ国内に於けるアスファルト販売企業のTipco Asphaltと代理店契約が出来ました。Tipcoはタイ国内にてアスファルトのシェア約4割、アスファルト合材工場の取引シェア約7割を持つタイ大手企業です。日工タイランドは2021年度に4台のAP売上高を予想しており、受注高はそれ以上を狙います。2023年度は12台の生産を見込み、将来はASEANへの輸出拠点としてさらなる増産をはかる計画です。タイ現地工場の竣工も2021年度中に予定されており、今後は現地化によるコスト削減などに期待が持てます。

当社の推測によれば、中国のAP設置台数は約4,600台あり、これは日本の900台、EUの2,700台程度と比べても大きな市場規模です。日工上海の動態シェアはハイエンドAPで15%前後(推)、競合メーカーは欧州企業2社、現地企業2社となっています。

●日工上海のAP売上台数



中国では環境規制や循環意識の高まりなどもあり、リサイクルプラントの割合が増えています。中国のアスファルト合材でリサイクル材の比率は推定10%(内陸部)～30%(沿岸部)でしかなく、日本の同75%と比較して低位に留まっています。ここ数年で中国においてRUが増えている背景は①採石場の環境規制によりバージン骨材の生産が減少傾向、②価格上昇したバージン骨材の代わりにリサイクル骨材の使用量が増加、③新設道路が打ち替え時期入り、などがあげられます。

日工上海は日本のRU比率が75%のことからも分かる通り、中国においてRU設置が増える事業環境下でビジネスチャンスが到来しつつあります。2020年度に初めて日工上海のRU比率は台数ベースで5割を超えており、2021年度以降もこの傾向は続くと思っています。日工上海はAP加熱炉の温度160℃でリサイクル骨材を高い温度で燃焼可能なため、欧州や中国の競合企業に対して優位と見られます。半面、リスクとしてはCO₂排出量抑制のため120℃のフォームド(中温化)装置の需要が増えれば、競合との差別化が必要になります。RUの採算面について、現状は日工上海全体のマージンと変わりませんが、既存の日工製APにRUを増設する場合は高いマージンが取れています。

新規事業～モバイルプラント製品は急伸、シェア拡大が続く

新規事業の中心である、モバイルプラント製品は2020年度に売上高10.7億円(2019年度;5億円)に急伸しました。モバイルプラント製品は主力のKLEEMANN製品が24台(同10台)と伸びて、業界シェア19.8%(同7.8%)となりました。2021年度も買い換えなどから高い需要が想定され、モバイルプラント製品の売上高16億円(業界シェア30%)を目指します。当社のユーザーは砕石・砂利業者やリサイクル・解体業者が中心ですが、最近は建設機械レンタル大手企業に広がりが見られます。ジョークラッシャから高単価のコンクラッシャやインパクトクラッシャも売れ始めており、順調

2030年の中国AP市場の展望として、GDPが米国を抜いて世界トップになっている可能性もありますが、高齢化や経済成長率鈍化などから、インフラ(道路)整備の予算縮小(および鈍化)が予測されます。また環境対策も強化されることから、APの新設は厳しくなると見込まれます。そのためAP設置台数は数年後に6,000～7,000台でピークを迎えて、その後は漸減するものと予想されます。製造コストの上昇や工事発注単価の低下により、アスファルトのリサイクル化(高混入率化)に加え、プラントの長寿命をはかる必要性が生じそうです。そのため、APの部分入れ替え、修理の需要が増すと予想され、日工上海も中期的に部品/サービスへの強化をはかっていきます。



日工上海 MBDプラント

渡辺総経理